

今週の為替相場見通し (2019年3月11日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.75 ~ 112.13	111.19	109.00 ~ 112.30
ユーロ	(ドル)		1.1177 ~ 1.1390	1.1230	1.1100 ~ 1.1350
(1ユーロ=)	(円)		124.28 ~ 127.37	124.87	123.00 ~ 126.00
英ポンド	(ドル)		1.2990 ~ 1.3271	1.3017	1.2950 ~ 1.3200
(1英ポンド=)	(円)	*	144.32 ~ 148.48	144.69	143.50 ~ 146.50
豪ドル	(ドル)		0.7003 ~ 0.7118	0.7046	0.6950 ~ 0.7200
(1豪ドル=)	(円)	*	77.73 ~ 79.63	78.33	77.50 ~ 79.00

(データ) 先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 田家 裕介

(1) 今週の予想レンジ: 109.00 ~ 112.30 円

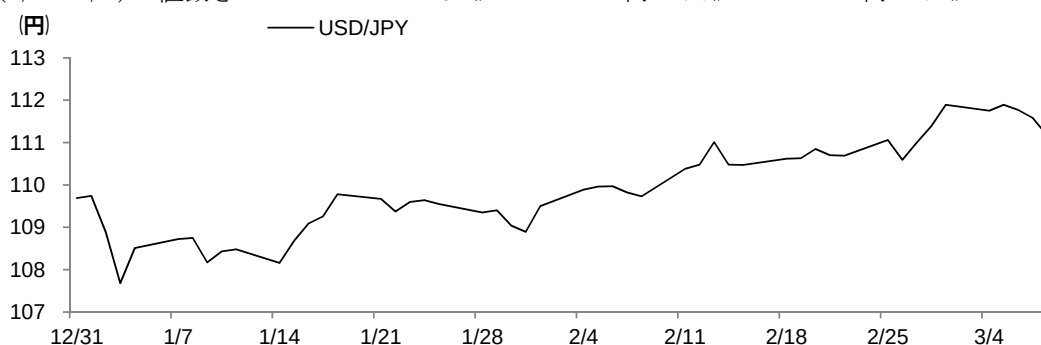
(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週のドル/円は下落する展開となった。週初4日、111円台後半で取引を開始したドル/円は米中通商協議が合意に近いと伝わったことから112.01円まで上昇。しかし利益確定のドル売りからすぐに111円台に反落し、米株が大きく下落する中、ドル/円は111.64円まで続落。5日、五・十日に伴うドル買い需要からドル/円は底堅く推移し、米2月ISM非製造業指数が予想を上回ったことから週高値112.13円まで続伸。しかし112円台では売り意欲が強かったことからすぐに反落。6日、豪10月～12月期GDPが予想対比弱い結果となったことからクロス円全般に売り圧力がかかる中、111.72円まで下落。その後、米12月貿易統計では米国の貿易赤字拡大が示されたことからドル/円はじりじりと111.62円まで続落。7日、ECB政策理事会ではTLTRO III(貸出条件付き長期資金供給オペ)の導入が決定されたことに加え、ドラギECB総裁の会見がハト派なものになったことからユーロ/円が下落する中、ドル/円も連れ安となったことで111.48円まで軟調推移の展開。さらに8日、中国2月貿易収支が予想対比悪化したことが示されると世界経済失速への不安感からドル/円は110.95円まで続落。その後、米2月雇用統計では非農業部門雇用者数変化が予想18万人増に対して2万人増と大幅に下回ったことを受けて週安値110.75円まで売られるも、失業率や平均時給が良好な結果となったことから111円台を回復し、同水準で越週した。

今週のドル/円は上値の重い展開を予想する。まず先週発表された米2月雇用統計は強弱入り混じる展開になったことでドル/円の反応は一時的に留まった。しかし失業率の低下は政府機関閉鎖の影響で失業した人が再雇用されただけとの見方がある。一方で雇用者数変化の大幅な悪化は米経済への先行き不透明感を高めるだろう。また先週金曜日に発表された中国2月貿易収支も悪化したことを踏まえると米中両国の主要経済指標が悪い結果となったことから世界経済失速への警戒感が高まることで今週のドル/円は下落する可能性が高いか。また先週は112円台を付ける場面が複数回見られたものの、112円台で取引された時間は非常に短く、いずれもすぐに反落している。輸出企業の多くは112円台で売れていない可能性が高いことからドル/円が仮に112円台まで上昇した際は実需の売りフローがドル/円の上値を押さえることが予想される。今週の重要イベントは11日(月)の米1月小売売上高、15日(金)に日銀金融政策決定会合と米3月ミシガン大学消費者マインドの発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/4～3/8)の値動き: 安値 110.75 円 高値 112.13 円 終値 111.19 円



(資料) ブルームバーグ

2. ユーロ

為替市場第一チーム 緒方 大輔

(1) 今週の予想レンジ: 1.1100 ~ 1.1350 123.00 ~ 126.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ/ドル相場は下落する展開となった。週初4日は週末に出たトランプ米大統領の「強すぎるドルは望んでいない」とのドル高牽制発言を受けて前週引けの1.1360台から1.1375でギャップオープンし週高値の1.1390まで上昇。しかし、上昇の流れは続かず、木曜日のECB政策理事会へ向けて売り意欲強く、海外時間には1.1310割れまで下落となった。5日は、引き続き上値重く1.13前半での値動きが継続。欧州時間ではイタリアの2月PMIを先頭に欧州サービス業PMIシリーズが市場予想を上回り一時上昇するも反応は一時的。米2月ISM非製造業指数が市場予想を上回り一時1.1290まで下落。しかし、下値での買い需給も旺盛で下げ渋り、1.13台へ反発となった。6日は、ECB政策理事会を控えて動意に乏しく欧州時間帯まで1.13前半で膠着。NY時間にECB関係者から「ECBが成長やインフレ見通しを下方修正し新規のTLTROの導入を議論する」との報道が伝わり1.1290割れへと急落。しかし、ヘッドラインの内容は既に織り込み済みの内容でもあり、売りは続かずショートカバーし1.13台を回復した。7日はECB政策理事会を控えてアジア時間は小動きの展開。ECB理事会では、新TLTROの導入に加えて、フォワードガイダンスを変更して年内の利上げを撤回するハト派な結果に1.13割れ。その後、GDP成長率とインフレ見通しを大幅に引下げられたことや、ドラギECB総裁会見でのダウンサイドリスクへの懸念や2020年3月まで政策金利の据え置きが議論されたことが明らかになりユーロは続落、1.12を割れ週安値の1.1177まで大幅下落した。8日は、前日のECBを受けてアジア時間は上値重く推移するも、欧州時間では実需の買いに支えられ1.12台を回復。米2月雇用統計が市場予想を下回ったこともあり1.1240台まで反発し前日の大幅下落を調整する動きとなり越週した。

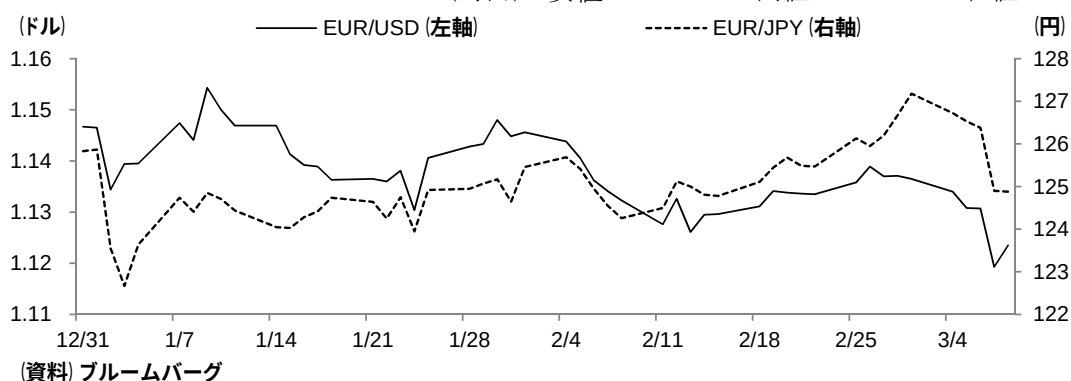
今週のユーロ/ドル相場は、上値の重い展開を予想する。先週のECB政策理事会では、成長とインフレの見通しを大幅に引き下げ、政策金利を維持する期間を2019年末まで延長したが、2020年3月までの据置きも議論されており、新政策の導入にもかかわらず、ダウンサイドリスクを警戒しているドラギ総裁の姿勢を見てもよりハト派な内容と考えられる。一方、金融政策面においてユーロ売り材料はいったん出尽くした可能性もあり今後の経済指標を見極めながらの展開も考えられる。しかし、今週は英国下院で離脱協定案の採決等控えるが依然先行きは不透明なまま離脱期間の延長もすでに織り込まれている。また、現状株式市場も調整局面であるとみられ、リスクに対する警戒感も強まる可能性があり、リスクセンチメントに反応しやすいユーロ/ドル相場は引き続き上値の重い展開を予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/4~3/8)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1177 高値 1.1390 終値 1.1230

(対円) 安値 124.28 高値 127.37 終値 124.87



3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.2950 ~ 1.3200 143.50 ~ 146.50 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の英ポンド相場は、ポンド買いの息切れから、外部要因によるドル高、円高を受けて下落したが、英固有の要因による値動きには乏しかった。週明け4日からポンドは軟調推移。先月27日の下院採決日程発表(後述)で、英がEUとの合意がないまま3月29日にEUを離脱する可能性は大幅に低減した。軟調な滑り出しは、そうした経緯を好感したポンド上昇の調整的反落の延長と考えられた。5日、コックス英法務長官、バークレイ英EU離脱担当相は、EUとの離脱交渉の為にブリュッセルに向かったものの、予想通り何の進展も得られなかった。7日のポンド軟調は、同日開催された欧州中銀理事会における、ユーロ圏成長率予想の大幅下方修正、年末までの利上げ見送り示唆(従来は夏過ぎまで)、長期資金供給策(TLTRO)の再開発表などを受けたユーロ急落に連れた値動き。この局面、対ユーロでは、ポンドも若干の上昇を見せた。その後8日に掛けては、円全面高が進行、ポンド/円の急落に引っ張られる格好でポンド全面安を招いた。円高は、米株安を受けたリスク回避の動きを、8日発表された中国の2月貿易収支の悪化(とりわけ輸出の大幅減額)が加速させた結果と考えられた。同日発表された米2月雇用統計は、非農業部門雇用者数の増加は大幅に市場予想を下回ったものの、平均賃金の伸びは予想を上回り、失業率は予想以上に低下する交錯した内容で、通貨市場の反応も交錯したまま、週の取引を終えた。

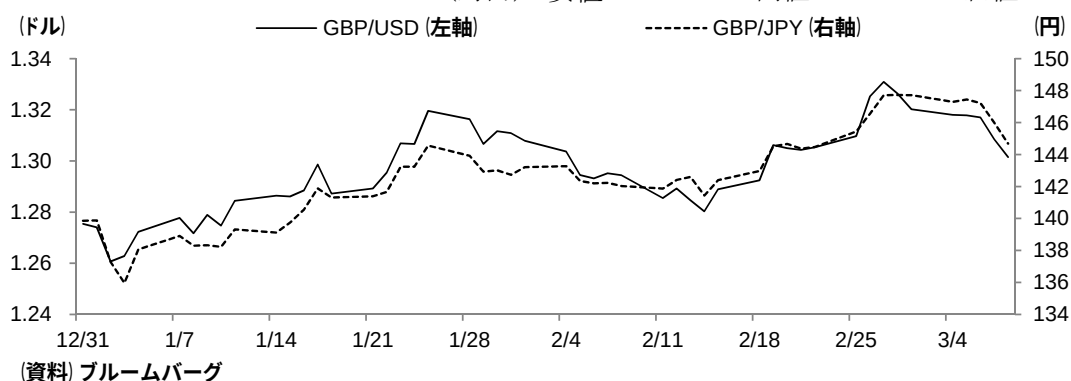
今週の英ポンド相場は、堅調気味の横這いを予想。今週予定される下院採決では、12日(火)にメイ首相がEUと結んだ離脱合意の是非を問う投票(所謂「意義のある投票」)が否決され、13日(水)に合意なき離脱の是非を問う投票が否決され、14日(木)に英政府がEUに対して離脱期限(現時点で3月29日)延長申請の是非を問う投票が可決される見通し。合意なき離脱が少なくとも当面回避されることで、ポンドにとっては好材料のはずだが、こうしたシナリオは既にポンドの値動きに織り込まれた感が強く、延長申請が確定するだけでは、ポンドを押し上げる力は弱いものと見込む。それでも堅調推移を中心に見込むのは、現在、メイ首相が「極めて短期」と主張している期限延長の期間が、長期化する可能性を見込むから。1年半以上の時間を掛けてまとまらなかった交渉の期限を、仮に数か月延長したとしても、そこに具体的な問題解消の道筋が見えなければ、数か月後に同じ混乱が訪れるのはほぼ確実。EU側も、「単なる時間稼ぎの延長は認めない」姿勢を明確にしている。上述12~13日の投票が、明確な大差で否決、否決、可決となった場合には、英政府の方針に抜本的な見直しが必要との認識が広がり、5月末の欧州議会選挙(投票)、7月初の同議会会期開始を越えた長期に亘る期限延長の議論が浮上してくる可能性も想定できる。8日には、残留派閣僚の一部が、今後の方針に関し、拘束力は伴わないものの、提案毎(「離脱期限の長期延期」「再国民投票実施」などが考えられる)に下院の意向を諮る投票(インディカティブボート)の実施を訴えたとの観測も聞かれた。仮にそうした動きが具体化すれば、不透明感のもう一段の払拭が期待され、ポンドが好感する可能性も考えられよう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/4~3/8)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2990 高値 1.3271 終値 1.3017

(対円) 安値 144.32 高値 148.48 終値 144.69



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の見通しレンジ: 0.6950 ~ 0.7200 77.50 ~ 79.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は0.71台から0.70台前半まで下落。先週の豪ドルは0.71近辺でオープン、4日に豪10～12月期企業利益が予想以上に悪化したことを受けて0.70台後半まで値を下げたが、米中通商合意が近いとの報道が相場を下支えた。5日に発表された中国2月Caixinサービス業PMIが昨年10月以来の低水準となり豪ドルは0.70台半ばまで下落。同日、豪州準備銀行(RBA)理事会が市場予想通り政策金利を1.50%に据え置くと発表。声明では豪経済が2018年下期に減速した可能性を認めた上で、企業投資や堅調な労働市場を理由に2019年の実質GDP成長率は3%前後・インフレ率は2%の予想を維持した。よりハト派的な内容を期待していた向きにより0.71近くまで買い進まれたが直ぐに売り戻され、0.70台後半でレンジ推移。6日発表された豪10～12月期実質GDPが予想を下回り、更に複数の大手銀行が今年2回の豪利下げ予想を発表すると、豪ドルは1月以来の安値0.70台前半まで急落した。7日にはECBがユーロ圏経済見通しの下方修正を発表。世界経済減速懸念からリスクオフの動きが広がり、0.70台前半まで売り進まれた。8日には予想を下回る中国貿易統計を嫌気し、豪ドルは再び下値をトライして週安値となる0.7003をつけるも、このレベルでの取引は長続きせず、0.70台半ばまで買い戻されて引けた。先週の豪ドル/円相場は79円台から78円台前半まで下落。先週の豪ドル/円は79円台前半で取引が始まり、米中通商合意が近いとの報道を受けてリスクオフの買いが入り79円台半ばまで押し上げられたものの、さえない豪10～12月期企業利益の発表を受けて79円台前半まで下落。5日、低調な中国経済指標に反応して一旦小緩むも、サプライズの無いRBA声明を受けて値を戻し、見慣れた79円台前半でレンジ推移。6日発表された豪10～12月期実質GDPが市場予想を下回る結果だったことを背景に、豪ドル/円は78円台後半まで急落、更に複数の大手銀行による2回の豪利下げ予想発表を受けて78円台半ばまで一段と値を下げた。7日にECBによるユーロ圏成長見通し引き下げが発表されると主要通貨に対して円高が進み、豪ドル/円は78円台前半まで下落した。翌8日には弱い中国貿易統計を受けて更に下落して週安値となる77.73円まで値を下げる局面もあったが、その後買い戻され78円台前半で引けた。

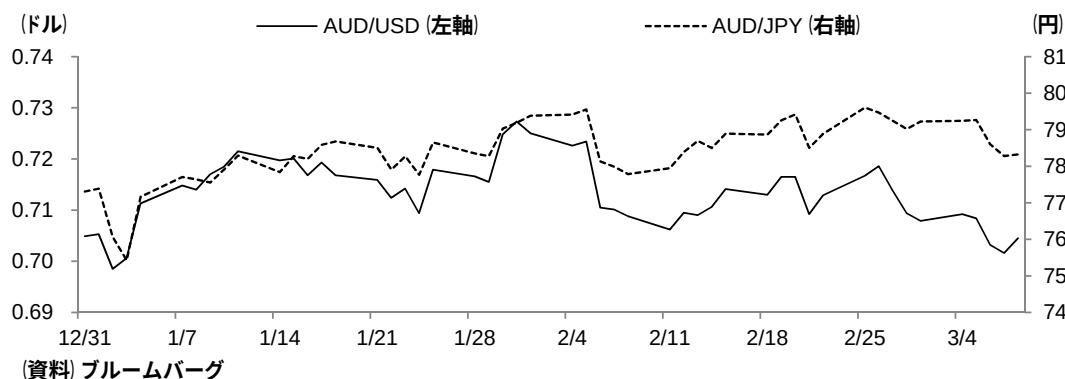
今週の豪ドル相場については、米1月小売売上高と英EU離脱議会採決が注目される。ECBがユーロ圏成長見通しを下方修正したことで、世界経済減速懸念が再び焦点となってきている中、11日に発表される米小売売上高は注目材料。又、今週は一連の英EU離脱に関する英議会採決が予定されており、その行方が注目される。先週発表された豪10～12月期実質GDP成長率が下振れしたことをきっかけに豪利下げ観測が強まっているが、豪ドルは抵抗線0.7021を突き抜けて更に下落する勢いは無く、売り疲れの様相。短期的には一旦買い戻される展開を予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/4～3/8)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7003 高値 0.7118 終値 0.7046

(対円) 安値 77.73 高値 79.63 終値 78.33



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。